

【発行元】

東野建設工業株式会社
〒020-0807
岩手県盛岡市加賀野2-8-15
TEL : 019-623-5575
FAX : 019-623-5576

月刊「工場・倉庫通信」を発行する「ハコボン建築」は、東野建設工業が運営する工場・倉庫建築ブランドです。工場・倉庫オーナー様の出店計画から操業後のメンテナンスまでトータルサポートをお約束します。東野建設工業の創業87年の実績に甘んじず、お客様のご要望に真摯に向き合い、“低価格・短工期・高品質”な工場・倉庫建築を実現します。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営に関する情報などリクエストも大歓迎です。今後とも、「ハコボン建築」を宜しくお願いいたします！

脱炭素・GX経営とは？

本記事では、工場・倉庫の脱炭素・GX経営をテーマにご紹介します。

「脱炭素」とは、温室効果ガスにおいて、排出量から吸収量・除去量を差し引いた合計をゼロにすることを指します。※ 脱炭素とカーボンニュートラルは同義です。

「GX（グリーントランスフォーメーション）」は、「脱炭素」より新しい言葉になります。

脱炭素が、温室効果ガスに着目した言葉なのに対して、GXは温室効果ガスに加え、経済・社会の変革という概念を含んだより大きい概念になります。

脱炭素・GX経営では、事業活動における温室効果ガスの排出削減に加えて、ESG（社会・環境・企業統治）やSDGs17ゴールの考え方に基づいて企業が経営戦略や事業方針を策定することも求められます。

脱炭素の取り組みでは、二酸化炭素を多く排出する部門（産業、運輸、業務その他、家庭など）を中心に、削減対策を実施していく手法が有効です。

脱炭素・カーボンニュートラル

温室効果ガス
排出量

【具体例】

- ✓ 火力発電
- ✓ ガソリン車



温室効果ガス
吸収量・除去量

【具体例】

- ✓ 森林の吸収
- ✓ 炭素貯留

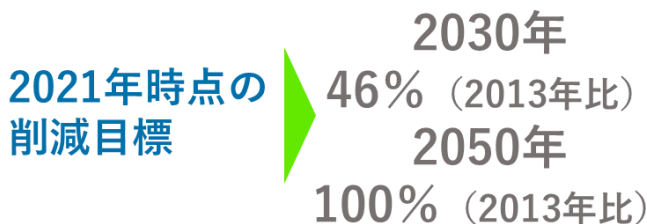
「脱炭素」とは温室効果ガスにおいて排出量から吸収量・除去量を差し引いた合計をゼロにすること

※ 脱炭素とカーボンニュートラルは同義

排出量の多くを占める

二酸化炭素の削減がキーとなります

脱炭素に向けた日本の動き



日本では上記目標達成のために様々な取り組みを行っています

ESG投資

温対法改正

脱炭素ロードマップ

グリーン成長戦略

工場・倉庫の脱炭素・GX経営における具体的な取組みは？

工場・倉庫の脱炭素・GX経営に取り組む理由には、①知名度獲得（採用、認知度）、②資金調達（融資や投資、株式）、③製品差別化、④取引先開拓などが挙げられます。

脱炭素・GX経営に取り組んだ方が良いのはもちろんですが、より自社にメリットが高い施策に絞って優先的に進めていく方法が効果的です。

では、最もメリットが高い取組みですが、以下のような認証・登録がおすすめです。

ISO14001

認定企業13,859社（日本適合性認定協会/2023年5月時点）

エコアクション21

認定企業7,442社（環境省/2023年4月時点）

SBT認定

認定企業350社、コミット67社（環境省/2023年1月時点）

例えば、SBT認証と聞くと、大手企業が中心で取組みにくい認証取得と思われるかもしれませんが、中小企業向けの認証コースが設定されています。

今後、中小企業の登録が増えてくることが期待される認定ですので、早期の申請を進めて先駆者メリットを得ていただければと思います。

以上、工場・倉庫の脱炭素・GX経営のすすめについてご紹介しました。

ぜひ、貴社でも、個人1人1人の省エネの努力を図るとともに、会社全体で脱炭素・GX経営の取組みを進めてみてください。



工場・倉庫建築に使える
お得な補助金レポートはこちら



工場・倉庫建築専門店「ハコポン建築」

（お問合せ窓口：牟田、高村）

TEL: 019-623-5575 FAX: 019-623-5576

〒020-0807 岩手県盛岡市加賀野2-8-15

※尚、今後このようなご案内が不要な場合は、右の欄にチェックを入れて019-623-5576迄ご返信をお願い致します。

案内
不要

お問合せは
コチラまで